

令和 6 年度
(第 13 事業年度)

事業報告

令和 6 年 4 月 1 日から
令和 7 年 3 月 31 日まで

公益財団法人ソルフェージュスクール

「令和6年度事業報告」目次

要 旨	1
≪事業活動≫	
ソルフェージュによる音楽指導及び普及（公益目的事業1）	2
1. ソルフェージュに関する研究及びソルフェージュスクールの運営	
（1）ソルフェージュに関する指導等および各種楽器、声楽等の実技指導	
【“ウフ”のレッスン】	2
【“ソルフェージュ&ABC”のレッスン】	2
【子どものコーラス“レ・テタール”のレッスン】	2
【ソルフェージュ、器楽及び声楽のレッスン】	2
【合奏のレッスン（室内合奏団のレッスン）】	2
【コーラス“レ・グルヌイユ”のレッスン】	3
【リコーダーアンサンブルのレッスン】	3
【若者たちのための室内楽クラスのレッスン】	3
【ピアノアンサンブルのレッスン】	3
【春のミュージックキャンプ】	3
【夏季合宿】	3
【楽しくアンサンブル】	3
【ちびっ子コンサート】	3、4
【大人の音楽の時間】	4
（2）ソルフェージュに関する研究、指導者育成及びその普及	
①通常プロジェクト	
【ソルフェージュスクール演奏会】	4
【前期おさらい会】 【後期おさらい会】	4、5
【研究会・試演会】	5
【講師によるコンサート】	5、6
【海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流】	6
②地域プロジェクト	6
（3）メディアの活用、資料収集、出版物刊行等広報の充実	
①メディアの活用	6、7
②ソルフェージュ教育に必要な図書、楽譜等の購入 ～ ⑤新しい指導教材の開発・研究	7
⑥ソルフェージュ教育の理念を著した冊子の発行（一般に実費配布） ～ ⑨楽譜のライブラリー化	7、8
2. 音楽ホール、練習室の貸与	8
3. ソルフェージュ普及のための一般向け講習会、講演会開催	8
≪管理部門≫	
1. 法人としての諸会議 2. 公益財団法人の情報公開 3. 業務執行体制の強化	9、10

要 旨

当スクールでは音楽で豊かな心を持つ人材の育成を教育の核としており、音楽が心を温かく、豊かにしてくれることを強く伝え、一人一人とていねいに優しく対応することを重視してきた。

経済環境悪化の波に屈することなく生徒数を増やすことに努め、とくに幼児・子どもが参加できる“ちびっこコンサート”を本格化させた。従来の“ウフ”、“ソルフェージュ&ABC”及び子どもコーラス“レ・テタール”のクラスからソルフェージュ、器楽のレッスンへの移行を後押しするために、レッスン見学や無料体験をアピールした。また、“若者たちのための室内楽クラス”でとくに若い年齢層の生徒がこれまで以上にアンサンブルを体験し楽しむ機会を作った。ピアノアンサンブルを楽しみたい成人を対象に“ピアノアンサンブルクラス”を開講し、3階ホールの2台のグランドピアノを活用した。

さまざまな努力を続けた結果、昨年度に比較して、今年度の延生徒数は52名、延べ受講者数は114名の増加であった。

昨年に引き続き、財政面においては篤志家の援助もいただきながら、事業の充実を図ると共に経費削減の努力をし、当財団独自の教育を継続してきた。

令和7年3月13日付けで、当財団の建物が登録有形文化財（建造物）へ正式登録されたのを機会に、建物の保存維持に努めながら、音楽教育の場としてさらに活性化させていく所存である。

《事業活動》

ソルフェージュによる音楽指導及び普及（公益目的事業1）

1. ソルフェージュに関する研究及びソルフェージュスクールの運営

当財団の運営するソルフェージュスクールにおいて下記の事業を行う。

（1）ソルフェージュに関する指導等及び各種楽器、声楽等の実技指導

ソルフェージュの研究の促進及び指導者育成を目的として研究者、指導者及びこれから研究、指導を目指す者、また関心のある一般を対象とした研究発表会、講習会、音楽会等を開催した。いずれも一般に公開した。

当法人が開発したソルフェージュットやリズムカード及び以前フランスで使われていた教本を翻訳・復元した教材等を用い、ソルフェージュスクールカリキュラムに沿って、具体的にリズム・拍・音程を習得させ、読譜力・視唱力・聴音力を身に付けさせた。それに器楽、声楽等の実技指導及び年数回の特別講習会を加え、音楽文化の理解を深めさせつつ実技を習得させた。

当スクールの教育の一端に触れてもらい入室を促すために、無料のレッスンの見学や体験レッスンを勧めた。

【“ウフ”のレッスン】 一般対象 延参加人数 71名

*0歳児から5歳児とその保護者を対象で月1回日曜日に行う音遊び。
年10回実施。

【“ソルフェージュ&ABC”のレッスン】 一般対象 延参加人数 19名

*小学校1～4年生を対象で月1回日曜日に行うソルフェージュと英語のコラボ。
年10回実施。

【子どものコーラス“レ・テタール”のレッスン】 一般対象 延参加人数 41名

*小学生から高校生対象で月1回日曜日に行い、年10回実施。

【ソルフェージュ、器楽及び声楽のレッスン】 延参加人数 855名

1学期	4月6日（土）～7月20日（土）
2学期	9月6日（金）～12月21日（土）
3学期	令和7年1月7日（火）～3月18日（火）

*原則として、週1回のレッスンとし、夏季レッスン日各曜日各1回（器楽受講者のみ）を含め、年間合計で41回実施。

【合奏のレッスン（室内合奏団のレッスン）】 一般対象 延参加人数 129名

*成人受講生対象で月2回の日曜日、弦楽合奏のレッスンと小グループによる室内楽のレッスンを行った。

*原則として月2回とし8月は休みとし、年間合計で22回実施。

【コーラス“レ・グルヌイユ”のレッスン】 一般対象 延参加人数 265名

*成人受講生対象で月1回土曜日に行い。年11回実施。

【リコーダーアンサンブルのレッスン】 一般対象 延参加人数 60名

*成人受講生対象で原則として月1回。曜日及び時間は参加者が相談して決めて実施。

【若者たちのための室内楽クラスのレッスン】 一般対象 延参加人数 52名

*アンサンブルを体験し楽しむためのレッスン。若い年齢層の参加を促し、3学期制で実施。

【ピアノアンサンブルのレッスン】 一般対象 延参加人数 20名

*2台のピアノのアンサンブルを楽しむためのレッスン。前後期制で実施。

【春のミュージックキャンプ】 一般対象 参加者 4名

3月30日（土）、31日（日）2日間（前期末の実施） 当法人ホール及び教室

普段の個人レッスンではなかなか取り組めないアンサンブルの経験を積むための2日間の講座。受講生の組合せを工夫し、様々なグループで用意された曲を勉強した。

【夏季合宿】 一般対象 参加者 7名

8月13日（火）～16日（金）ペンションドルチェ（長野県飯綱高原）

春のミュージックキャンプより一層深く曲に取り組み、アンサンブルや合奏を通じて、音楽の勉強に留まらず、相手への思い遣りなどを自然に身に付けられるような合宿であった。最終日のコンサートが充実した合宿を物語っていた。

「今年の参加は学生達、かつて子供の時に合宿に参加されていたOBの方々、講師の方々…幅広い世代が音楽でつながり合って大家族のように近しく感じられる合宿でした。朝から寝るまでだれる暇なく音楽に遊びに熱中し、最後の発表会もたった2日半で素敵なプログラムができ。急なポスター作りも合宿ならではの賜物でした。音楽は疲れている身体とスピリットではなかなか内から出てくるものではないが、合宿の場で皆で元気に過ごせると、終わった後でも、もっともっと弾きたい、学びたい、続けたい、と思えるものでした。」（亀井由紀子／ゲスト講師の感想から引用）

【楽しくアンサンブル】 一般対象 参加者 3名

11月23日（土・祝） 当法人ホール及び教室

小3以上を対象とし、初見で演奏する力を養うためのアンサンブルによる1日の講座で11月の1回開催とする。個々の参加者の実力に合わせて無理なく楽しく、事前に楽譜を渡して個人練習をした上で、その場でのアンサンブルの体験を積むように指導者が導いた。複数回受講経験者の初見及び音楽的な演奏の進歩には顕著なものがあつた。

今回は小学生の生徒さんを中心に先生方と一緒に音を合わせる楽しさを味わった。

【ちびっこコンサート】 一般対象／未就学児

9月23日：36名参加、 令和7年2月2日：54名参加

未就学児を対象にしたコンサート。家族と一緒に参加し、楽器に触っても、いっしょに歌っても、いっしょに踊っても、寝転がって聞いているだけでも自由。未就学児が目と耳と手と視聴覚を目一杯働かせ、音楽を身体と心で感じ取るコンサートを目指して実施。

2月開催時には、クラリネットやリコーダーも加わり、全員参加で楽しいコンサートであった。

【大人の音楽の時間】 一般成人対象

環境が整わず実施できなかった。

(2) ソルフエージに関する研究、指導者育成及びその普及

① 通常プロジェクト

【ソルフエージスクール演奏会 6月30日(日) 全電通労働会館】

ソルフエージスクールの受講生全員が、リトミック、室内楽、器楽合奏、弦楽合奏、合唱等のいずれかに出演し、外部のホールで催す年1回の定期演奏会。来場者がスクールの教育を大観し、ソルフエージの教育を理解する重要な機会として位置づけた。

今回の会場・全電通労働会館のホールは演奏会専用ではない多目的ホールであったため、これまでとは使い勝手が変わっていたが、これも良い経験であった。

～プログラム～

♪ ピアノ連弾

シュンゲラー ハンスとグレーテ / 郵便馬車だ! / 踊ろ、踊ろ
ラヴェル 「マ・メール・ロア」よりI、IV、V

♪ 室内楽

フランス民謡 キラキラ星の変奏曲
モーツァルト 弦楽四重奏曲 第16番 変ホ長調 KV428 第1楽章

♪ リトミック

♪ ハンドベルとうた

とけいのうた / つきよ / げんきなこども

♪ 弦楽合奏 (若者たちのための室内楽クラス)

グリーグ 過ぎし春
スーク 「セシナーデ」より 第1、2楽章

♪ 弦楽合奏 (ソルフエージスクール室内合奏団)

メンデルスゾーン 「シンフォニア9番」より 第1、2、3楽章

♪ 合唱

エルガー
「FOUR LATIN MOTETS」より
Ave verum / Ave, Maria / Ave, Maris Stella

【秋のおさらい会 10月20日(日) 当法人ホール】

【春のおさらい会 令和7年3月20日(木・祝) 当法人ホール】

10月と3月の二回に分けて開く発表会で、器楽、声楽を学ぶソルフエージスクールの受講生の演奏を一般公開し、本校での教育の特徴を見てもらった。

器楽、声楽を学んでいる受講生(主に個人レッスン)は少なくとも年1回は人前で演奏披露することで、普段とは違う学習と練習を体験する大切な場であり、また生徒同

士、保護者そして教師にとっては個人レッスンの進捗状況を知る良い機会であった。

秋のおさらい会では、楽器初心者の生徒も安定した演奏をしたことなど、だいぶ成果がみえはじめた。声楽の生徒も増え、それぞれの個性を活かした演奏だった。後半の大学生や社会人の生徒は、地道な努力が身を結び成果を上げ、ピアノアンサンブルクラスは大人でもしっかりと音楽を楽しむことができるという当初の目標を達成しつつあった。

春のおさらい会では、久しぶりの24組の出演となって賑わった。初めて参加した生徒もしっかりと弾いていた。特筆すべきは、今まで出演できなかった生徒たちが思い切っ

って人前で演奏したことだった。日々の音楽が心を育てていることが示された。

【研究会・試演会 令和7年2月10日 当法人ホール】

ソルフェージュ、器楽の教授方法、教本の使い方や生徒への対応の仕方など、時々

のテーマを設けて講師一同が意見の交換をしてレッスンの質の向上を目指すための研究会・試演会であった。

講師有志等の独奏或いはアンサンブルによる演奏を聴き合い、日頃教える立場にある者がお互いに具体例をもって意見を述べ合うことで良い研修の機会として、講師が自発的に企画し実施した。今期は、研究会と試演会を合体させて行った。

「ソルフェージュスクールでは音楽を学び・楽しみに来ている生徒だけでなく、講師である私たちも音楽について勉強会を開催し切磋琢磨しています。それが試演会であり、研究会です。お互いの演奏を聴き楽曲への理解を深め、文字通り音楽を研究していきます。今回は5名の講師が参加しお互いの演奏を聴き合いました。一人二回ずつ演奏したのですが、聴く側は楽譜を見ながら演奏に耳を傾けます。楽譜を見ながら演奏を聴くと、見ない時と比べて様々な音が聴こえてきます。そして演奏者が楽譜から何を読み取り、どのように感じて弾いているかが伝わってきます。」（講師：津布楽杏里談）

【講師によるコンサート】

＜春のコンサート 4月29日（月・祝） 当法人ホール（有料）＞

＜クリスマスコンサート 12月15日（日） 当法人ホール（有料）＞

春と12月に開く講師及びゲスト演奏家を交えての演奏会。

「音楽はソロだけではなく合奏の楽しさを味わい、音楽の喜びを得る」というソルフェージュスクールの目標のひとつを、当校の講師が自らの演奏によって、より多くの方へ伝えるためのコンサートであった。それぞれのプログラムは以下の通りであった。

春のコンサート

（プログラム） ♪「楽興の時」より 第2番、第3番 シューベルト

♪ソナタ第2番 変ホ長調 ドゥヴィエンヌ

♪春の信仰/君はわが憩い/ガニュメート シューベルト

♪献呈 シューマン

♪至福 シューベルト

♪「8つの小品」より 1番、2番、6番、7番 ブルッフ

クリスマスコンサート

(プログラム) ♪ロンド イ長調 Op.107 D.951 シューベルト
♪ソナタ ラドミロー
♪セント・ポール組曲 ホルスト
♪ヴァイオリンとヴィオラの為の二重奏曲 ト長調 K.423 モーツァルト
♪リュートの為の古代舞曲とアリア第3番 レスピーギ
♪Have Yourself a Merry Little Christmas Winter Wonderland White Christmas

【海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流】 一般対象 （原則として有料）

ソルフェージュスクールで学び、プロとして活躍中の演奏家を講師として招き特別講習会を開く予定であったが、実施できなかった。

② 地域プロジェクト

児童及び高齢者を対象とした地域プロジェクトへ協力（講師派遣等）した。
豊島区の NPO 法人富士見台ひろば主催のクリスマスコンサート等へ協力をした。

（3）メディアの活用、資料収集、出版物刊行等広報の充実

ソルフェージュ教育に必要な図書、楽譜、楽器を購入すると共にソルフェージュの普及のため研究成果及び教育内容などの出版を行う。マスメディア（新聞、雑誌等々）で当スクールの情報を発信し、またネットワークメディアの内容充実と更新を継続し、タイムリーな情報発信を行った。

① メディアの活用

<ネットワークメディアの活用>

ウェブメディア・ホームページの充実等

広報力の強いホームページとした。更新頻度の短縮に努め、迅速な情報伝達を強化した。音楽を心の糧にし、音楽で豊かな心を育むことで人間性を高め、日本の音楽文化を進化させていけることを強く訴えるため、内容を濃くすると共にわかりやすくアピール力のある表現となるよう工夫を重ねた。

役員名簿、定款、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程、各事業報告書及び収支計算書・貸借対照表他並びに各事業計画書及び収支予算書を公開した。

文部科学省関係法人名鑑及び音楽教育関連データシステム等に登録をして当財団の周知向上を図った。

ソーシャルメディア・SNS の活用

ホームページとは別に、Facebook、Instagram と X を加えて SNS を連携させて情報発信を強化することにより、タイムリーで詳細なソルフェージュスクールの事業内容を広報した。

<マスメディアの活用>

テレビ神奈川の取材が映像化され、当スクールの認知度アップに繋がっていくことができた。

TVK テレビ神奈川の番組「イイコト！」で当スクールを取り上げたもので、令和7年2月21日（金）放送。建物をつくった吉村順三氏の思い、当スクールを開設した大村多喜子氏の思い、創立当初から大切にしている教室の教育方針など、余すところなく紹介したものだ。

- ② ソルフエージ教育に必要な図書、楽譜等の購入
特になし

- ③ 「ソルフエージスクール News Letter」の発行

当スクールの行事の報告及び予告等スクールの活動をタイムリーに広報し、またその時々音楽のコラムなども掲載し。一般に無料配布。ホームページに掲載。

第16号は7月4日、第17号は11月27日、第18号は令和7年3月12日にそれぞれ発行した。

- ④ 独自に発行したソルフエージ指導楽譜を教材として使用し、一般に実費配布

シャセバン1 ￥560－（税込）

シャセバン2 ￥612－（税込）

シャセバン3 ￥440－（税込）

- ⑤ 新しい指導教材の開発・研究

他分野の研究グループ等と連携して、ソルフエージェット新版等の指導教材の改良・作成等の検討と、あらゆる世代に面白いと興味を持ってもらえる音楽アプリ開発を継続した。

- ⑥ ソルフエージ教育の理念を著した冊子の発行（一般に実費配布）

当財団の設立者たちがソルフエージ教育の理念について書き残した文書類の整理を昨年度に引き続き行い、できるだけ早急に公開できるように、web掲載、分冊発行の検討を継続した。

- ⑦ 登録有形文化財（建造物）に登録

当スクールの建物（建築家・吉村順三設計）が、令和6年3月1日文化庁による実地調査を受け、その後同年11月22日の文化審議会における答申を経て、令和7年3月13日付で正式に「登録有形文化財（建造物）」として登録され、同日付の官報においても公告された。本登録により、当スクールの歴史的・文化的価値が認められたこととなり、施設そのものが貴重な文化資産として位置づけられた。これにより、今後のスクールのブランド価値の向上が期待されるとともに、建物の維持・補修における補助金制度の活用や固定資産税の軽減等、経済的な利点も得られることとなった。また、登録答申を受けたことを広く周知するため、令和7年2月16日には、当スクール3階ホールにおいて報告会を開催した。地域関係者や報道関係者、多数の来場者を迎え、当スクールの文化的意義と今後の展望について広報を行った。

令和7年3月13日付で登録有形文化財（建造物）として、文化庁HPに下記内

容が掲載された。

ソルフェージュスクール 所在地：東京都豊島区 建築年代：S42

建築家吉村順三がバイオリニストの妻のために設計した現役の音楽教室。三階ホールは斜線規制を逆手に取った勾配屋根で天井高を確保し水平窓で巧みに分節。吉村による一連の音楽施設の初期作品。

⑨ 楽譜のライブラリー化

当スクールが所有する楽譜を PDF 化して分類保存する。貴重な楽譜の保存だけでなく、諸行事に必要となる楽譜の活用が容易となる。PDF 化に際しては著作権法に抵触しないように気を付ける。今期は実施できなかった。

2. 音楽ホール、練習室の貸与

当財団の所有するホール及びピアノの設置された教室（練習室）を、当財団が使用していない時間に、当財団の事業及び公益目的に合致する者に低廉な対価で貸与した。

とくに、音楽学校受験生の使用費用は低価格として活用を促したが、今年度は受験生への貸与はなかった。今期はその他の利用が35件あった。

* 随時受付、費用は別途料金表に公開している。

3. ソルフェージュ普及のための一般向け講習会、講演会開催 一般対象（無料／有料）

【合奏及び室内楽演奏法】 原則として月1回 当法人ホール

室内楽授業を、原則として月1回、一般に無料聴講できるように公開し、合奏及び室内楽の演奏法を習得してもらうと同時にソルフェージュ教育の成果を実感してもらった。

【講習会・講演会】

演奏技術のみならず演奏家の逸話、音楽史等々広範囲な内容とする。

海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流の場として開催予定の特別講習会はこの一般向け講習会を兼ねる場合もある。今期は実施できなかった。

《管理部門》

1. 法人としての諸会議

定款の規定に基づき、評議員会及び理事会等を開催した。

定時評議員会は令和 6 年 6 月に 1 回、通常理事会は令和 6 年 5 月及び令和 7 年 2 月の 2 回、それぞれ開催した。

今年度の諸会議の内容は以下の通りだった。

【令和 6 年 5 月 21 日 決算監査】

開催方法：オンライン会議

出席等：監事 2 名出席

【令和 6 年 5 月 29 日 令和 6 年度 第 1 回通常理事会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 令和 5 年度事業報告及び決算並びに令和 5 年度事業報告書等に係わる提出書類の承認決議

2. 令和 6 年度定時評議員会の招集決議

1. 日時：令和 6 年 6 月 12 日（水） 13：00～14：00

2. 開催方法：オンライン会議

3. 議題： 1. 令和 5 年度事業報告及び決算並びに令和 5 年度事業報告書等に係る提出書類の承認決議

2. 当評議員会で任期満了となる評議員、理事及び監事の推薦候補（案）の承認決議

4. 報告： 1. 資産の管理運用状況の報告

2. 令和 6 年度事業計画及び収支予算書等の報告

3. 令和 6 年度定時評議員会で専任される評議員、理事及び監事の推薦候補（案）の承認決議

報告事項： 1. 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

2. 令和 6 年度事業計画及び収支予算書等の報告

出席等：理事 6 名出席、監事 2 名出席

【令和 6 年 6 月 12 日 令和 6 年度 定時評議員会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 令和 5 年度事業報告及び決算並びに令和 5 年度事業報告書等に係わる出書類の承認決議

2. 当評議員会で任期満了となる評議員、理事及び監事の推薦候補（案）の承認決議

報告事項： 1. 資産の管理運用状況の報告

2. 令和6年度事業計画及び収支予算書等の報告

出席等：評議員4名出席 1名欠席、監事2名出席、理事6名出席

【令和6年6月12日 令和6年度 臨時理事会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 理事長、専務理事及び常務理事選定の承認決議

2. コンプライアンス担当理事選定の承認決議

理事長伝達事項： 1. 理事の責務について

2. 委員会について

出席等：理事6名出席、監事2名出席

【令和7年2月5日 令和6年度 第2回通常理事会】

開催方法：オンライン会議

決議事項： 1. 令和7年度事業計画及び収支予算等の承認決議

報告事項： 1. 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告

出席等：理事6名出席、監事2名出席

2. 公益財団法人の情報公開

現在公開中のものに加え、令和6年度事業報告書及び計算書類等、令和7年度事業計画書及び収支予算書等をwebサイトで情報公開した。

また、「ソルフェージュスクール NEWSLETTER」を3回発行し、当スクールの活動状況を公開した。

マスメディアとネットワークメディアによる情報発信を強化した。

3. 業務執行体制の強化

6月の定時評議員会で役員・理事を改選し、組織運営体制を充実させ、業務執行体制を強化し低調な運営状況の回復に全力を注いだ。

また、勤務契約、業務委託契約等の内容を的確なものとするなど、コンプライアンスの強化・遵守に努めた。